

登録コード:MH132400 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	小児発達看護学実習【20M～24M】 Practice in Child Health Nursing			
担当教員	佐藤 奈保 他 中山 佳子・川田 悠介・平林 優子			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/3・4年 不定期 集中・不定期			
単位数、講義室	2 単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		看護の対象である子どもを発達主体として全人的に理解して支援するすることを実習を通して理解し、一部を計画して実施することができる。	
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		実習の受け持ち患者の看護過程（情報収集、計画、実践、評価とフィードバック）、見学等を通して、子どもの身体的、心理的、社会的に最適な健康状態を目指した看護支援を系統的に実践する能力を養う。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		実際の患者や家族との関りを通して、子どもおよび親家族を尊重した関りを理解し、対象に合った実践を行う能力を養う。	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		看護の専門者として自らの看護感を深め、専門職としての自覚を高める。またチームの一員としての協働を理解し、一部実施することができる。	
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護			
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		既存の知識・技術を実習の場で、患者や家族との関わりを通して統合し、実践において活用できる知識・技能に発展させる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		実習の中で生じている課題について、課題の背景にある医療、社会、制度についても考え、既存の学修によって身に着けた知識・技術のみならず、実践現場での倫理的・道徳的な判断を身に付け、創造的に課題解決に向けた行動をとれるようにする。	
	問題解決力 保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。		実習の受け持ち患者の看護過程（情報収集、アセスメント、計画、実践、評価とフィードバック）、見学等を通して、子どもの身体的、精神的、社会的に最適な健康状態を目指した看護支援を系統的に実践する能力を養う。	
対人関係形成・協働力 保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、看護専門職者として協働的に役割を担うことができる。		患者や家族との信頼関係を構築し、小児に関わるチーム関係者の役割を理解し、チームの中でよい関係を形成し、適切なコミュニケーションの在り方を考え実習を実施できる。		
プロフェッショナリズム 看護専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		子ども及び親家族の価値観を尊重し、誠意をもって真摯な態度で関わる。子どもや家族との相互作用を通して、子どもや家族に関わる自己の在り方を省察する。実習を通して自らの看護観を深め、専門職者としての自覚を高める。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	小児専門病院または大学病院の小児科病棟での実践ならびに、小児に関連する各部署の見学実習を通して子どもと家族への支援を学びます。 病棟では原則として1例の子どもを受け持ち、入院中の子どもおよび家族への看護過程の展開を通して、小児看護の実践能力を養います。 大学病院においては小児科外来で、小児専門病院では、外来、PICU、手術室の見学実習を通して、子どもや家族のニーズ、各部署の特徴、看護の役割を学びます。 これらの経験の中で、小児、家族の尊厳を擁護する看護職の役割を学びます。 本科目は、担当教員の医療機関等での実務経験を活かして実習指導を行います。 本実習は、「小児発達健康論」「小児発達看護学概論」「小児発達看護方法論」を専門領域の看護の基盤知識として用いますが、基礎看護学、成人看護学等で学んだ基本的な各科目の看護の知識・技術についても小児を対象とした患者に応用して用います。			
授業計画	3年次は、2026年8月31日～2027年1月22日、4年次は2027年6月中に1クール、合わせて9クール実施する。各グループが1クール2週間の実習を1回実施する。 基本的な日程（祝日等で調整が必要な場合はグループごとに伝える） 1.必要な事前学習内容を伝えるので、各自事前学習を行う。 2.実習初日：実習に必要な看護技術の演習ならびに事前学習内容の確認や追加 3.2日目（病棟初日）病棟のオリエンテーションと情報収集、日常生活ケアの見学等 4.3日目～病棟実習終了日（大学病院・小児専門病院で異なる）対象の患者に応じた情報集、アセスメント、看護計画、実践、評価、修正を行い、看護過程を展開する。 5 受け持ち患者について、本学の小児科医師からの臨床講義を受ける。 6.毎日のカンファレンスにより、看護のアセスメント、計画、実践を発展させる。 7.中間カンファレンスが可能な場合は（グループにより異なる）、アセスメント、看護問題や目標を共有し、さらなる実践に活かすための共有の時間を持つ。 8.大学病院では小児科外来（半日間）、小児専門病院においては（1.5日）、外来、PICU、手術に分かれて見学実習を行う。 9.病棟実習最終日には、病棟ごとに指導者を交えて実習に関する最終カンファレンスを、			

授業計画	行い、学びを共有して深める。 10. 大学病院では、病棟実習最終日に、小児専門病院では各部署の最終日にカンファレンスを行い、各部署での学びについて共有し学びを深める。 11. 実習最終日：学内で実習全体のカンファレンス：実習目標達成のために、実習期間では難しかった内容、深めきれなかった課題について検討し、グループで共有する。実習の自己評価、個人面談による評価を行う。授業アンケートの実施。 12. 実習記録を実習目標が達成できる形にまとめて提出する。
授業の進め方	小児専門病院または大学病院の小児科病棟で、子どもを受け持ち、入院中の子どもおよび家族を含めた看護過程の展開を通して、小児看護の実践能力を養います。また種々の見学等を通して、小児看護技術の理解や、子どもへのケアの理解を深めます。 子どもの受け持ちについては2名で1人の患者を受け持つ場合があります。情報交換しながら協力して実習を行います。また、各部署の見学実習や一部の実践への参加を通して、臨床で行われている小児看護の実際を知り、各部署の特徴や看護の役割を学びます。 臨床現場の指導者や様々な職種の方からのアドバイスにより、自己の視点を発展させます。また、院内学級の見学、保育士の活動の見学、病院ならびに病棟の行事への参加等を通して、子どもの権利が保証される入院・医療環境について学びます。 カンファレンスは学生が主体となって開催し、活発なディスカッションにより各自の学びを向上させます。
テキスト，教材，参考書	小児発達健康論・小児発達看護学概論・小児発達看護方法論で指定および授業内で示したテキスト・教材・参考書を適宜用います。また、授業資料を用います。 対象の子どもの疾患・治療や看護について自ら文献を検索し活用します。 特に看護技術のテキストは種々出版されています。受け持ちおよび看護技術等を見学予定の対象に実施される計測・処置・検査等は必ず自分で書籍を用いて確認してください。
成績評価の方法	看護の実施内容、実習記録、実習態度、カンファレンスへの参加内容を成績評価の対象とし、成績評価の基準に従って総合点に評価し、100点満点とし、60点以上を合格水準とする。
成績評価の基準	実習評価項目 患者・家族への尊重した態度 多角的な情報収集能力、子どもや家族を取り巻く政策的な理解、子どもと家族のセルフケア能力および家族機能の査定、対象に見合った看護計画の立案、状況に適した看護実践、実施の分析評価・さらなる展開へのフィードバック、適切な支援の求め方、事前学習内容や、実習現場での連絡相談報告の適切性を含めた実習態度の視点において、「卓越している（90点～100点）」＝主体的・積極的に適切な判断の元に実施でき、看護を発展できるとします。「かなり上にある（80点～89点）」＝必要時支援を主体的に得ながら自ら展開する力がある・「やや上にある（70～79点）」＝支援者の指摘により必要な自己の学習課題を見出し自ら取り組むことによって学習目標を達成できる、「水準にある（60点～69点）」＝学習する上での課題や方法について指導を受け、実習目標を達成できるとします。提出すべき記録がない場合は、1記録につき - 1点とします。
事前事後学習の内容	必要なリソースを用いて、翌日の実践計画を準備し実習に臨んでください。 当日実施した結果を分析・評価し、翌日の計画に活かしてください。 実習指導者や教員から、事前学習・事後学習のアドバイスを受けたら、それに取り組み実習を進めましょう。当日の実践計画なしには実習には参加できませんので、準備して臨んでください。実習前の学習内容を提示するので（受け持ち患者の疾患や病棟の特徴に合わせて出します）、各自自己学習してください。 本授業の単位取得には90時間の学習が必要です。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	患児・家族の方々から直接学ぶことのできる貴重な学習の場・機会です。 学内での学習をしっかりと活かし、現場での様々な支援を生かして積極的に実習をして下さい。 相談・連絡 佐藤奈保 研究室：中校舎4階 e-mail:naho_sato@shinshu-u.ac.jp 川田悠介 研究室：中校舎3階 e-mail:yskawada@shinshu-u.ac.jp 中山佳子 研究室：中校舎4階 e-mail:ynaka@shinshu-u.ac.jp（臨床講義に関連して）